

東北ブロック会議（令和3年11月19日・郡山ビューホテル）

オンラインを併用して開催され、全体で参加者は約60名。

はじめに主管県の一般社団法人福島県専修学校各種学校連合会の岡部隆男理事が開会の言葉を述べ、今泉玲子東北ブロック福島大会会長が開会にあたって、職業実践専門課程の制度としてのすばらしさを強調し、「実のある制度としていくよう、皆で努力していきましょう」とあいさつを述べた。

続いて全国専修学校各種学校総連合会の福田益和会長が、「コロナの猛威が収まってきたとはいえ、緊急事態宣言下を含めて大会開催に向け尽力くださった関係者に敬意を表します」とあいさつ。あわせて、一条校との格差是正に取り組む中、5月と8月に職業実践専門課程を有する専門学校に対する運営費補助の裏付けとして、地方財政措置の制度化の要望について、各都道府県協会等から知事あてに要望書提出のお願いをしてきたことと、その結果として全国知事会の要望に「職業実践専門課程を有する専門学校に対する助成を実施している地方公共団体を支援するため、特別交付税などの地方財政措置を創設するなど、十分な財政支援措置を講ずること」との事項が盛り込まれたことを報告。また、文科省で議論が進んでいる学校法人のガバナンス改革の動向についても言及し、全専各連として既存の学校法人の意見を十分尊重するよう意見書を提出し、今後の取りまとめの方向性を注視していると述べた。

永年勤続表彰ののち、来賓として赤池まさあき内閣府副大臣がビデオメッセージを寄せ、祝辞とともに、留学生の入国緩和、補正予算としての学生支援等、最近の政府の動きについての報告もなされた。また、福島県の内堀雅雄知事（代理）が祝辞を述べた。

その後講演に移り、文科省の岡貴子専修学校教育振興室長から専修学校をめぐる最近の動向について報告が行われた。講演では、令和4年度の専修学校関係予算概算要求、コロナウイルス感染症への対応、最近の閣議決定文書について、「専修学校 #知る専」について、専修学校の質保証・向上について、リカレント教育の動向、修学支援新制度等についての行政報告がなされた。

続いて全専各連事務局から、地財措置への対応、協力者会議への対応、補正予算への対応、留学生入国緩和への対応等について、団体としての具体的対応策を報告。

ブロック会議の議事として、令和元年度事業報告並びに収支決算報告、令和3年度事業計画及び収支予算案、令和4年度ブロック大会開催県の3つの議案が審議され、すべて原案通りに承認。これを受けて、次期開催県として宮城県の菅原一博会長があいさつ。

休憩後、基調講演として、日本酒業界で近年目覚ましい躍進を遂げている福島県内の酒造メーカーの取組について、福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターの鈴木賢二氏が講演を行った。講演終了後、福島県の畑修副会長が閉会の言葉を述べて、すべてのプログラムを終了した。